



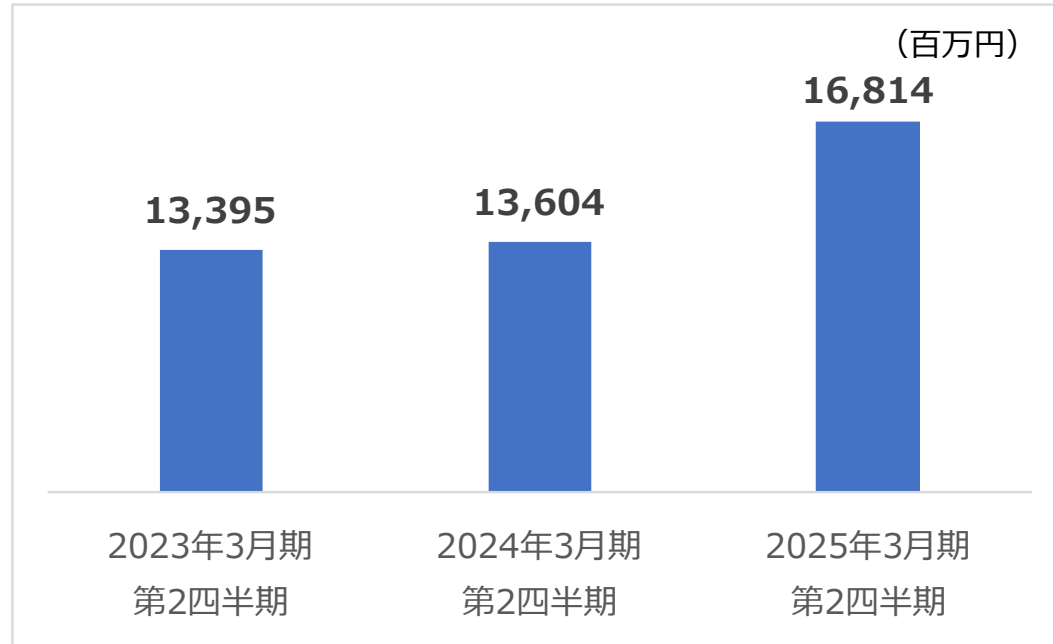
2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

2024年11月12日

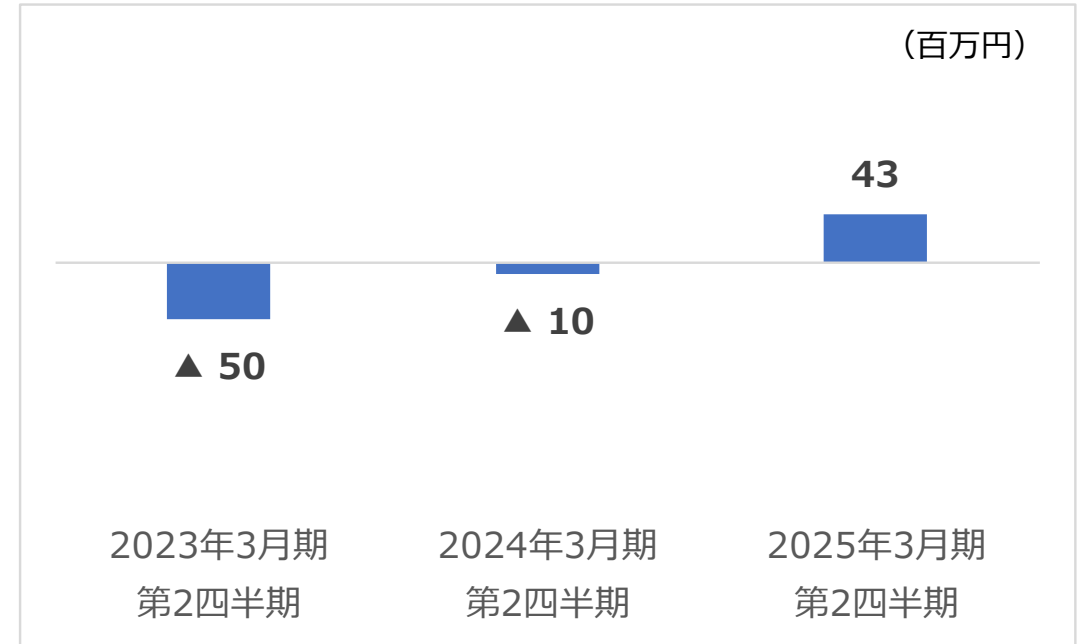
株式会社日本ピグメントホールディングス

売上高は、連結対象範囲の拡大により増加
営業利益は、販売構成の変化、為替影響等により増益を確保したものの、中国現地法人の清算コストの増加等もあり、当初予想は未達成

売上高

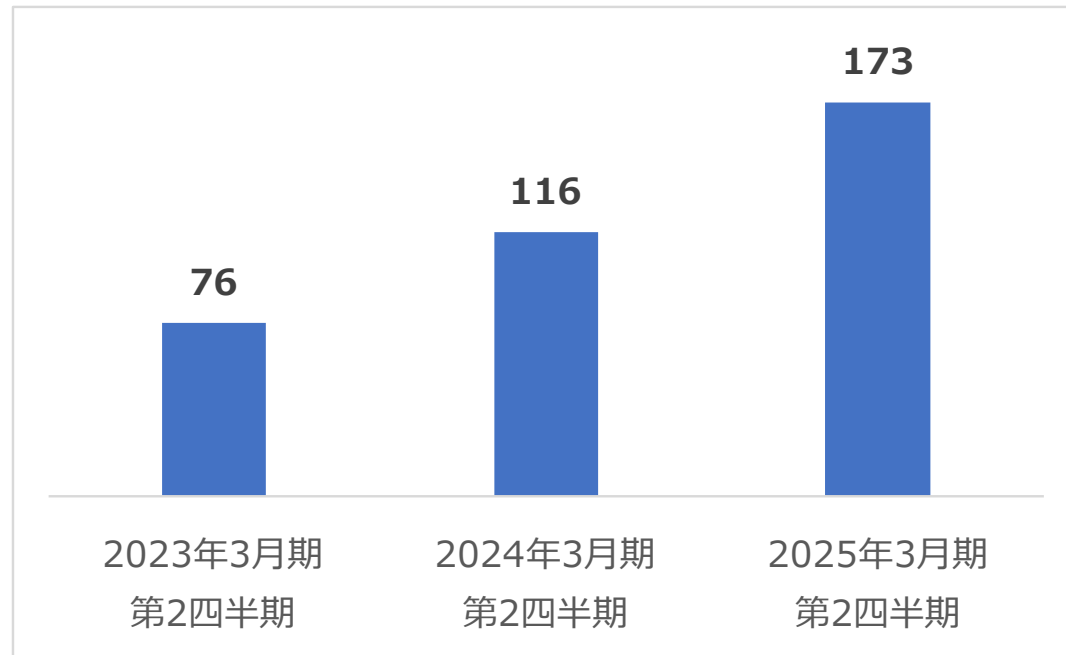


営業利益

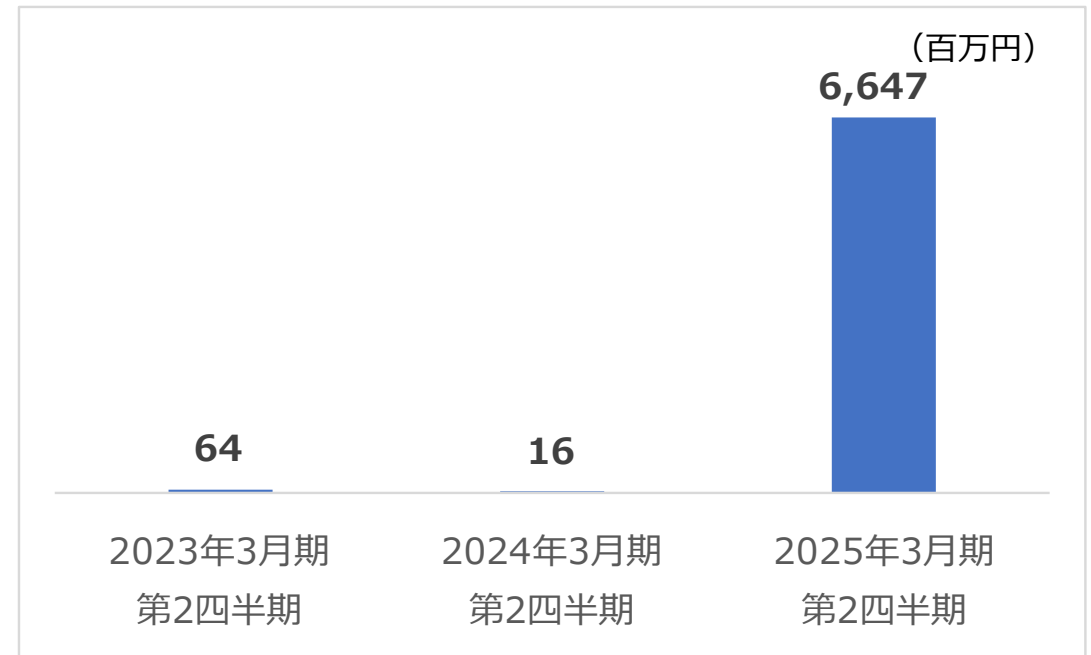


経常利益は前年同期比で増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、PLASiST（旧住化カラー株式会社）の株式取得に伴う負ののれん発生益により大きく増加

経常利益



親会社株主に 帰属する 四半期純利益



2025年3月期 第2四半期業績 地域別のポイント

① 日本

- ・樹脂コンパウンドは、自動車減産の影響から、第1四半期を中心に販売低迷はあったものの、第2四半期の自動車生産の回復もあり、概ね前年同期比並みの売上を確保
但し、商品構成の変化もあり粗利額は減少
- ・樹脂用着色剤は飲料向けなどを中心に底堅く推移も、自動車影響等もあり売上、粗利額は減少
- ・加工カラーは液晶パネル向け販売が堅調に推移したことにより、前年同期を上回る実績

② アジア

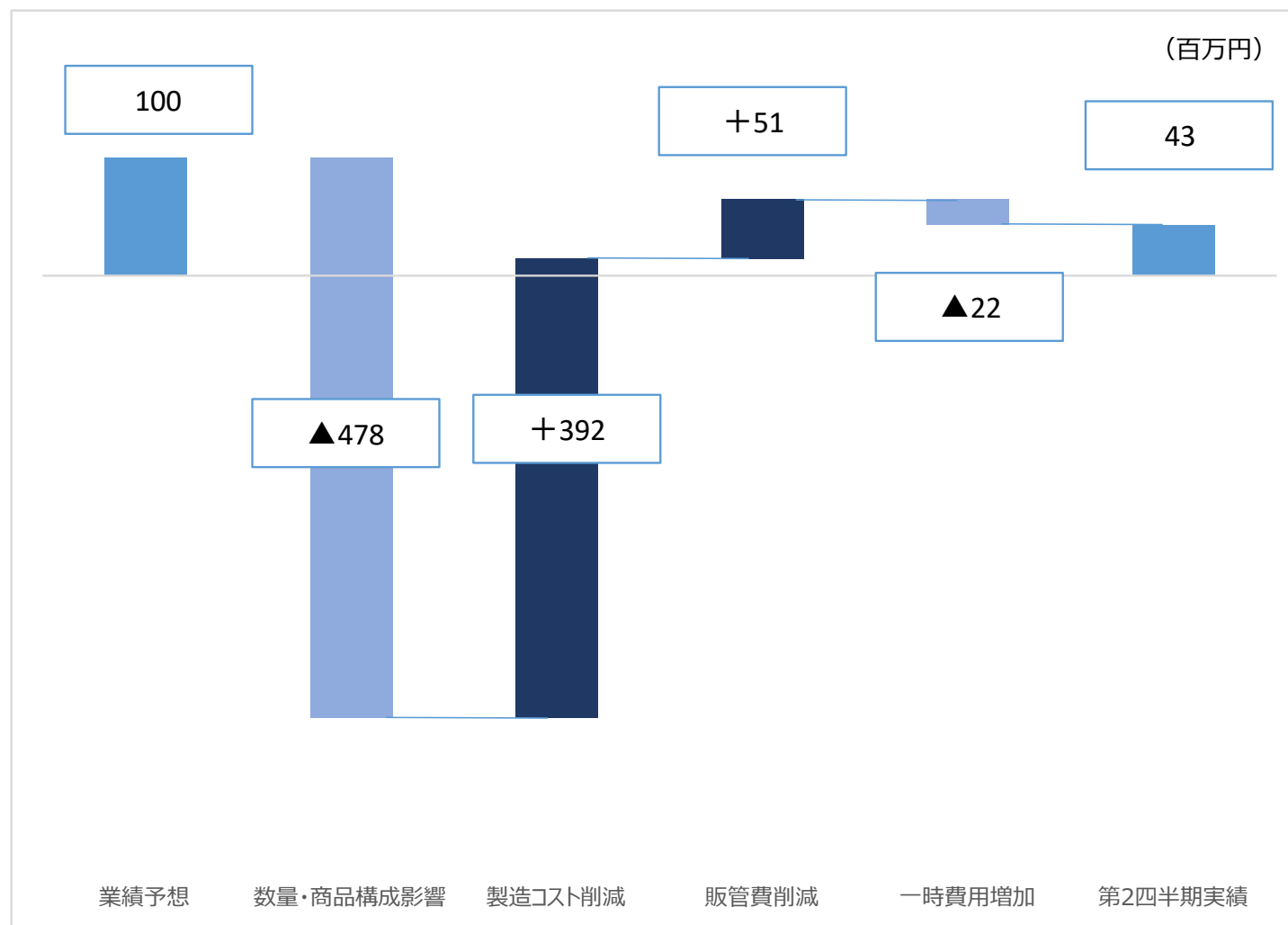
- ・インドネシアは、国内自動車販売の低迷を受けた受注のマイナス影響などもあり売上は前年同期比減少
- ・マレーシアは中国経済の減速影響等はあったものの、前年同期並みの売上を確保

③ 中国

- ・日系自動車メーカー各社の販売低迷などを受け、日系各社からの受注は極めて低位に推移、売上は大幅に減少
- ・一方、中国メーカー向け販売は、太陽光パネル向け、飲料向けなどが堅調に推移
- ・尚、天津碧美特工程塑料有限公司は計画通り生産を終了。中国内での生産移管などを進める状況

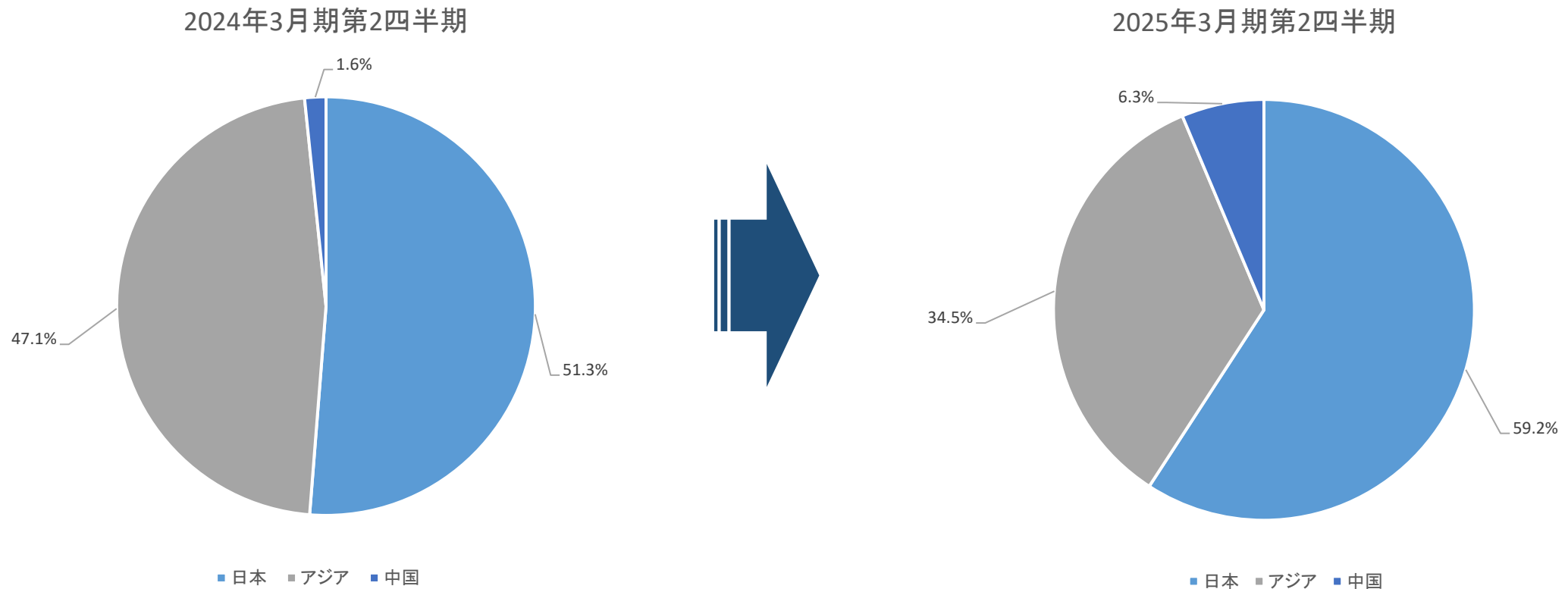
2025年3月期 第2四半期 営業利益について

数量・商品構成の変化に伴う収益のマイナスを経費削減でカバーも、統合に係る費用等の一時費用の増加もあり、第2四半期累計営業利益は業績予想値を下回る実績に止まる



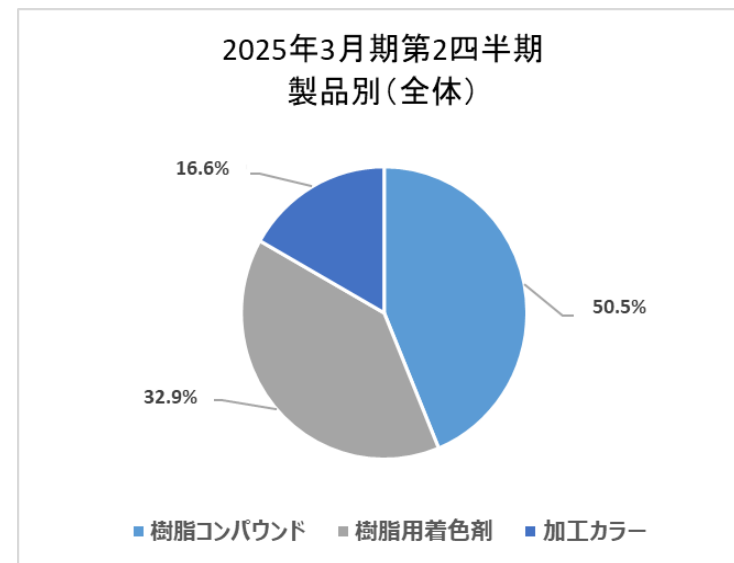
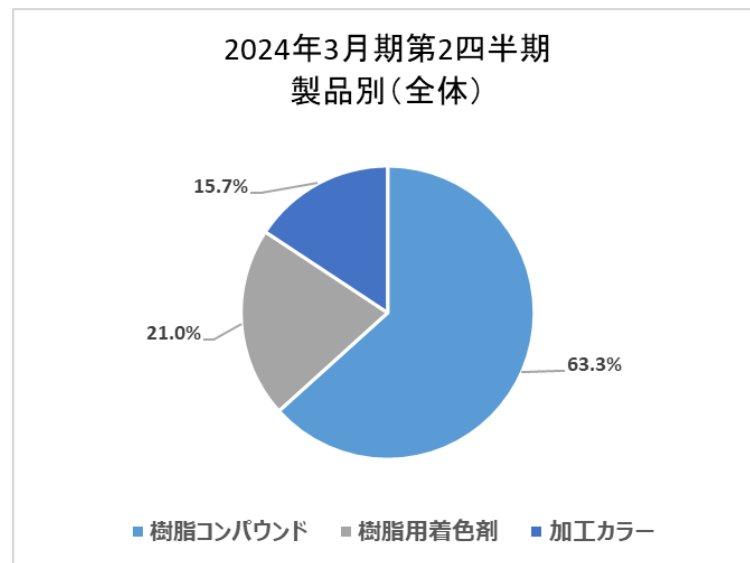
(参考) 地域別売上高構成

- 日本ピグメント、PLASiSTの経営統合の結果、地域別売上高比率は日本 (+7.9%)、中国 (+4.7%) の比率が上昇

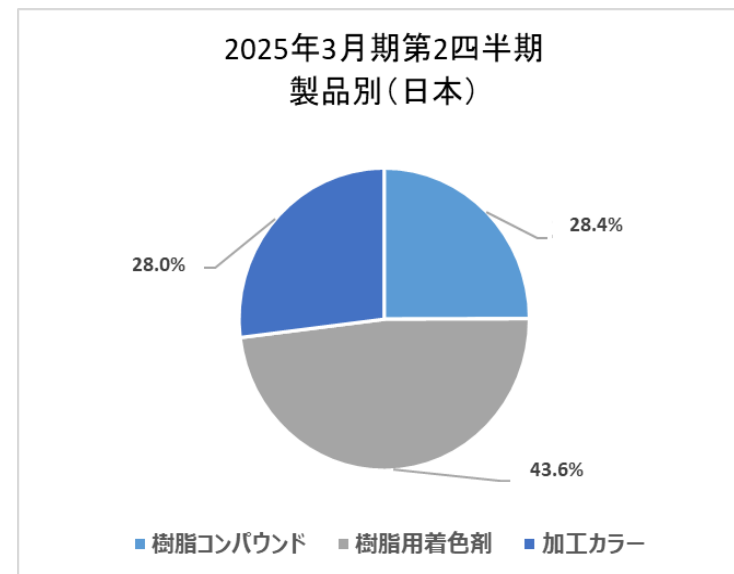
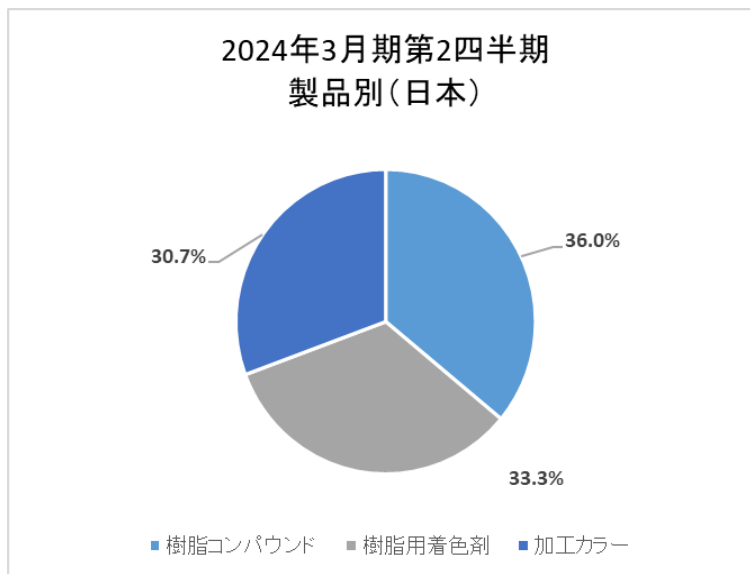


(参考) 製品別売上高構成

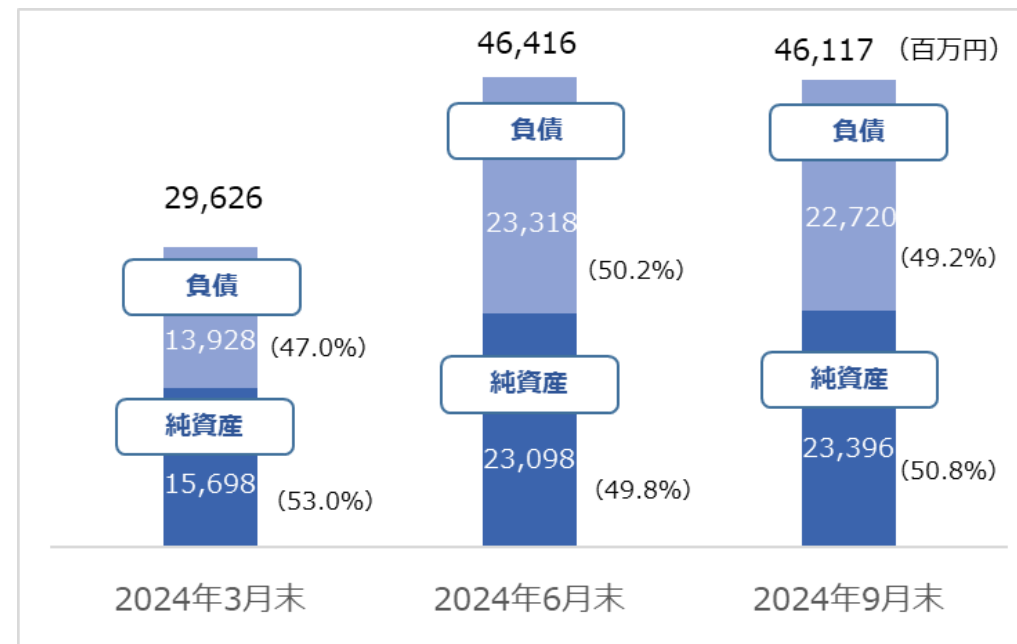
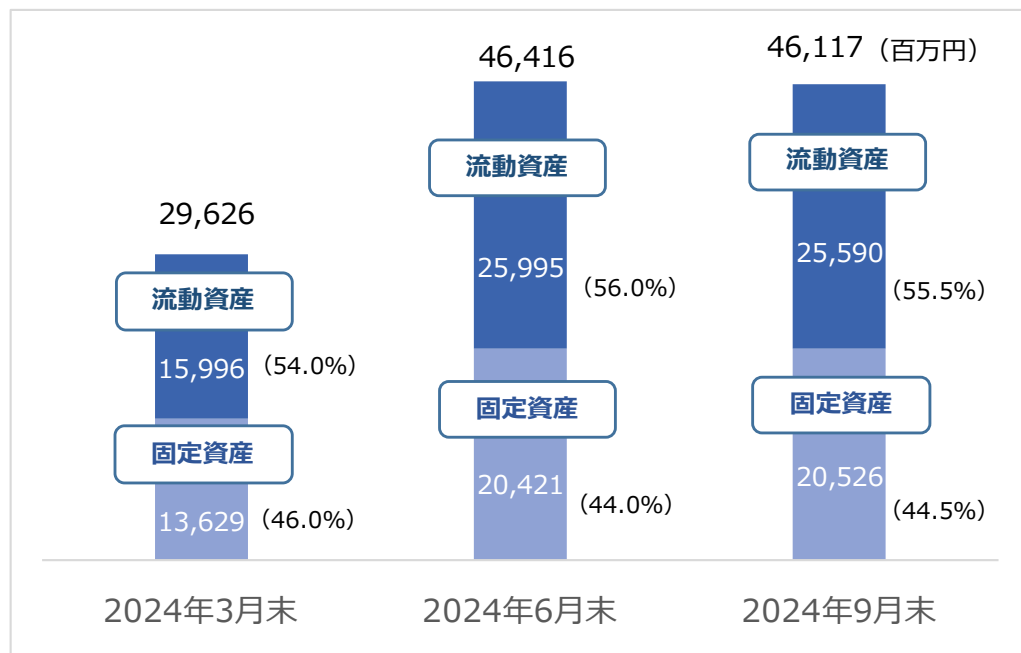
- 製品別では、樹脂化合物比率 (▲12.8%) が低下
一方、樹脂用着色剤比率 (+11.9%) が上昇



- 地域別の比率が高い
日本では、樹脂用着色剤の売上高が約50%まで上昇



連結貸借対照表等の概況



【2024年6月末（連結範囲拡大）以降の変化】

資産

- 現金・預金の減少
- 固定資産の増加

負債

- 支払手形、買掛金の減少
- 短期借入金の増加
- 繰延税金負債の減少

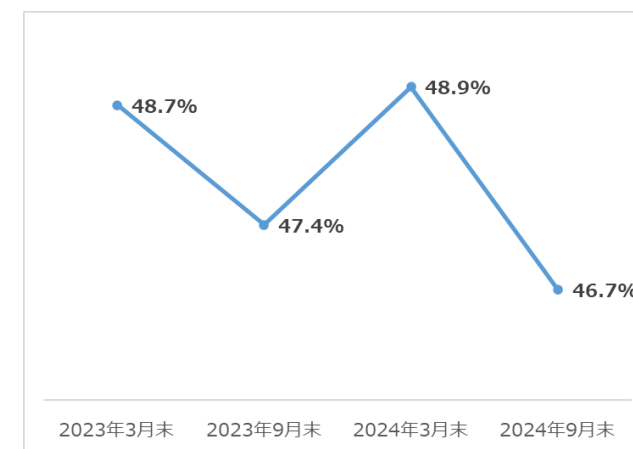
純資産

- 利益剰余金の増加
- 為替換算調整勘定の増加

D/Eレシオ

0.26 (2024年3月末 0.30)

自己資本比率



連結損益計算書の概況



	24年3月期	第2四半期	25年3月期	第2四半期	(百万円) 増減率
売上高		13,604		16,814	23.6%
売上総利益		1,644		2,346	42.7%
販管費計		1,655		2,303	39.1%
営業利益		▲ 10		43	-
営業外収益計		172		193	12.1%
営業外費用計		45		63	40.0%
経常利益		116		173	49.1%
特別利益計		1		6,824	-
特別損失計		1		320	-
税金等調整前中間純利益		115		6,677	-
法人税等計		58		▲ 12	-
中間純利益		56		6,689	-
親会社株主に帰属する中間純利益		16		6,647	-

- 足許の外部環境に大きな変化なく、国内では自動車減産の影響、海外では中国経済の動向に引き続き留意の要。また、為替市場の動向には留意の要

日本

- 自動車向け需要は、下期は底堅い推移を見込む。その他樹脂需要全体の回復には不透明感が残存も、今後の底入れを期待
また、製造関連コストの低下は見込み難いことから、グループ全体で生産効率向上に向けた施策を推進
 - ・ 樹脂コンパウンド部門は、下期以降の樹脂需要回復を期待
 - ・ 樹脂用着色剤部門は、飲料向け、化粧品向け等を中心に幅広い用途での販売増を目指す
 - ・ 加工カラー部門は、国内建材向け等の需要は弱含み推移の可能性。一方、大型パネル用途向け需要は堅調推移を見込む




東南アジア

- 中国経済動向に不透明感、東南アジア各国の自動車販売減速などのマイナス要因に留意しつつグループ一体での営業強化による販売拡大を企図

中国

- 日系向け販売の回復は当面見込めず、中国地場メーカー向け販売を強化

シナジー効果の早期実現

 PRODUCTION 生産効率化の推進 最適な生産体制 の実現 【具体的施策】 ① 中国2拠点の最適化に向けた再編検討 ② 国内拠点の「スクラップ&ビルト」 - 大阪地区等の再編計画の策定・実行	 RESEARCH & DEVELOPMENT 新規領域でのスピード感ある上市体制の構築 【具体的施策】 ① 両社の開発部門の協業体制構築 - 2024年度から人事交流を開始 ② 半導体向け等の金属材料の上市	 SALES SEGMENTATION 拡大した製品ラインナップの活用 【具体的施策】 ① マスターバッチ販売の強化、拡大 - 多様な用途への対応力強化 ② 東南アジア地域でのマスターバッチ販売の強化
--	--	--

**両社のシナジー効果の早期実現により
2027年度の営業利益目標を25億円に設定、達成を目指す**

PLASiSTとの経営統合によって目指すもの～シナジー効果 中長期的施策を実現するためのPMIの進捗状況について

下期より具体的な施策として着実に推進



生産



営業・購買



研究開発



品質保証

コスト削減、合理化

- 生産拠点の合理化検討に着手
- 外注コスト削減策の立案
- 副資材や消耗品費の削減、購入合理化の推進
⇒ 下期より具体化

- 一体的な購買体制の構築に向けた検討を開始
- 輸送、保管コスト削減案を策定中
⇒ 下期より具体化

- 両社の検討リソースを集約し、設計開発を統合（液体系・樹脂系領域）

ビジネス基盤の強化

製品の品質・安全保証の双方改善

- 別の視点からの気づきや、有効な方法を互いに取り込む目的で、両社間の相互監査を2025年より開始することで計画
- 化学品管理システムの統合化(2025年～)

サステナビリティ対応を含む新たな取り組み

環境活動の推進

- 産業廃棄物削減計画を推進
- 環境に関する双方サステナビリティ対応の取りまとめを「サステナビリティ委員会」にて実施、継続中

次世代型生産体制の推進

- DX, IoT関連
(現行使用のノーコードツールや材料照合システムの両社活用を模索、次世代型の業務設計を推進)

新規領域開拓

- 新規顧客獲得、販路拡大を目指した計画を策定
- 半導体/電子材料用途で期待されるグラフェン、カーボンナノチューブ等の先端素材を用いた液体分散体の新規開発～製品化の推進を目的に増員。既存検討体制の更新による新規テーマの推進を加速



2027年度の営業利益目標達成へ

株式会社 PLASiST

PLASiST Company Limited (プラシスト)

次の10年に向けた、「**PLASTIC(プラスチック)** + **ASSIST(アシスト)**」の言葉で構成

新社名に込めた想い



… 変化する世界情勢・事業環境の中、逆風を受ける従来のプラスチックのイメージや**概念を超えた応用展開**で社会に欠かせないモノづくりを行う企業を目指し、プラスチックの有用性を訴えつつ、環境対応にも寄与できる製品群の拡充を図る



… グローバルに通用するワードを適用し、事業の更なるグローバル展開を推進してゆく

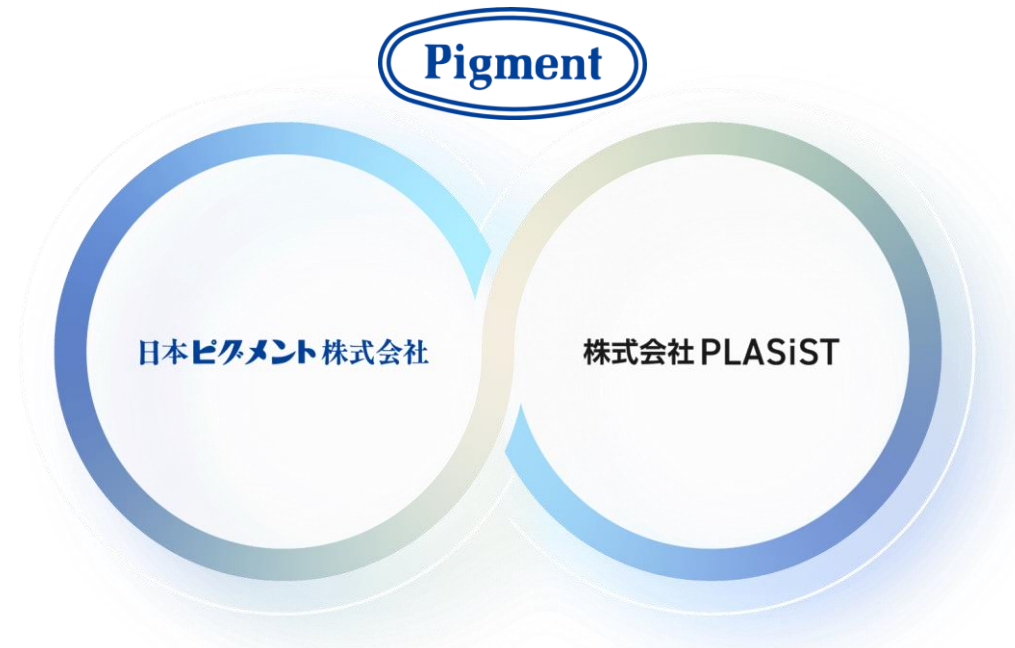


… プラスチックの性能、価値等を向上させるプロフェッショナルとしての意味を込め、これまで培われてきた技術開発のリソースを活かし、事業に取り組んでゆく



… 小文字の「i」は人の形に似ていることから、「人を大切にする企業」として様々な会社諸施策に取り組み、従業員もより誇りとやりがいを持って働くことができる企業を目指す

- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります



株式会社 日本ピグメントホールディングス

Nippon Pigment Holdings Company Limited